

平成26年3月定例会

市長説明要旨

山 鹿 市

本日、ここに、平成26年3月定例会を招集しましたところ、議員各位には公私ともにご多用の中、ご参集を賜り厚く感謝申し上げます。

本定例会においてご審議いただきます諸議案の説明に先立ちまして、平成26年度の市政運営に関する私の所信を申し上げ、市民の皆さま並びに議員各位のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

■市政運営方針

わが国経済は、アベノミクス効果により、徐々に景気回復の裾野が拡大しており、いずれ実体経済にもその恩恵が及ぶと予想され、長年続いているデフレ状態を脱していくものと思われま

す。こうした予想を裏付けるかのように、今月発表された月例経済報告においても、「景気は緩やかに回復している」との基調判断がなされ、このまま景気回復基調が続くことが期待されています。

一方、本市におきましては、景気回復の実感が乏しい中、平成26年度に合併10年という節目を迎えます。

この間、合併による効果を最大限に発揮し、行財政基盤の強化による市民サービスの充実を目指して、様々な課題に対応してまいりましたが、総じて言えば市政は着実に前へ進んできたと思っております。

ます。

新庁舎の建設をはじめ、一般廃棄物処理施設の建設候補地の選定、中心市街地の活性化と過疎地域の振興対策、公共施設の再編整備への対応等々、振り返ってみますと難題の連続ではございましたが、一定の成果を感じているところでございます。

平成26年度は、これまでの歩みを踏まえた、新たな10年のスタートに備える重要な年であります。

私は、市政発展の鍵は、首長のゆるぎない信念と行動力にあると信じております。どのような将来像を市民や議会に提示するのか、また、その将来像を実現するための戦略を市職員にどう示すのか、市長としての私の説明責任であると思います。

市政運営の方針として、私は、引き続き「人をつくる・人を育てる」「経済をつくる・活性化する」「人口減少に歯止めをかける・定住促進を図る」の3つを柱に、行財政運営の大きな方向性として定め、新たなスタートを切りたいと思います。

■予算編成の考え方

続きまして、平成26年度の予算編成方針について申し上げます。

合併10年目を迎える本市においては、第2次財政構造改革大綱に示す集中改革期間の最終年であると同時に、地方交付税の算定特例など、国の支援に支えられた準備期間を経て、自立した自治体へと転換していかねばならない重要な時期となります。

また、秋には新しい市民サービスの拠点となる新庁舎への移転が予定されており、行政組織の見直しを含め、利便性が高く、より簡素で効率的な行財政運営が求められています。

市民が将来にわたって安心して暮らせるまちづくり、住民生活を支える基礎的サービスの確保とともに、地域産業の振興や地域の実情に応じた活性化策等の施策展開を進めながら、自治体の創造性、自立性を高めると同時に、財政規律の観点から、将来世代への負担を先送りすることがない効率的な財政運営を目指してまいります。

平成26年度は、引き続き3つの柱に予算を重点配分いたしました。

このような考えのもとに編成しました、平成26年度の一般会計予算の規模は、296億8,400万円であります。これに9特別会計と3企業会計を合わせますと、純計で512億924万円となりました。

■26年度に重点的に取組む施策

それでは、ただ今申し上げました予算編成方針に基づき、「3本の柱」ごとに重点的に取組む施策の概要について、ご説明いたします。

まず、第1の柱「人をつくる・人を育てる」についてであります。

市民が将来に希望を持ち、いきいきと暮らしていくために、ふるさとの良さを理解し、ふるさとに誇りを持てる人材を育成してまいります。

①地域づくり市民塾

様々な分野で将来の山鹿市を担う有為な人材の育成を図るため、「地域づくり市民塾」を立ち上げます。

市民塾では、専門家を招いた講演会のほか、塾生同士の親睦と融和を図りながら、各種団体が実施する催しや市全体のイベントでの協力体制を徐々に強化していくとともに、行政も必要な支援を行うなど、行政と市民との協働による「人づくり」を推進します。

②和紙工芸の後継者育成

本市の和紙工芸品である「山鹿灯籠」「来民うちわ」などの技術の保存・継承や後継者育成の支援を行います。特に、昨年12月に国の伝統

的工芸品に指定された「山鹿灯籠」については、今後の振興計画の策定を支援し、灯籠製作者の皆様と連携しながら、更なるブランド力の向上につなげてまいります。

③夢のとびらをひらく

市民が、いつでもどこでも気軽に学べる学習の機会や本に親しむ環境づくりが大事であります。今年秋に完成予定の市民交流センター内に設置される新たな図書館については、ふるさと山鹿に関する資料や先人が残した蔵書、中高生を対象とした図書等を充実させ、子どもから大人まで、多くの市民が気軽に集い、学べる場とすることで利用者数の増加に努めます。

また、市内の図書館と図書室をオンラインで結び、移動図書館車の運用と併せて、本に親しむ利用環境の向上を図ります。

④ハンドボールの街

平成31年に「女子世界ハンドボール選手権大会」が熊本で開催されることが決定しました。このことは、平成9年の「男子世界ハンドボール選手権大会」の開催実績を持つ本市にとっては、チャンスの再来であります。

そこで、まずは女子世界ハンドの会場を本市に誘致することに全力で取り組みます。誘致に成功すれば、スポーツの振興のみならず、地域活

性化も期待でき、ハンドボールの盛んな市として世界に売り出すことができます。

また、開催に向け市を挙げた受入態勢を早期に確立するとともに、大会で活躍する選手を地元から輩出するという大きな目標に挑戦したいと思います。

そのために、小中高校でのハンドボール体育授業の強化をはじめ、「やまが総合スポーツクラブ」や「青少年アスリート育成事業」を充実させ、競技人口の拡大と有望選手の育成に努め、「山鹿市＝ハンドボールの街」と言われるように頑張ります。

次に、第2の柱「経済をつくる・活性化する」についてであります。

基幹産業である農林業の活性化のため、引き続き「収益性の高い農林業(もうかる農林業)」の実現を目指し、地域資源を十分に生かして「元気」を生みだせる施策を展開してまいります。

商工業については、将来への可能性を実感できる施策として、若者世代が永く住み続けるための雇用の場の創出や活力ある商業の振興支援に努めます。

観光については、優れた歴史・文化・自然・景観などの資源を生かしながら、中心市街地と周辺地域を有機的に連携させることにより、観光客

の周遊を促進し、相互に波及効果をもたらす仕組みづくりを整えてまいります。

①ワイナリー構想

菊鹿ワインは、ここ数年の様々なコンクール受賞を機に、全国的に地名度が高まり、需要に供給が追いついていない状況にあります。そのような中、ワインを醸造する熊本ワイン株式会社より当地域内にワイナリーを建設し、更なるブランド力の強化を図りたいとの申し出がありました。

本市としては、「観光と農業の連携・複合化」のモデルと考えられることから、醸造施設及び葡萄畑を核としたワイナリー構想の実現に向けた取り組みを支援してまいります。

②6次産業化

農林産物の生産・加工・販売の一体化や地域資源を活用した新たな産業の創出を通じて雇用と所得を確保し、高齢者から若者や子どもまでが安心して定住できる社会の実現を目指すため、6次産業化等に取り組む企業・事業者・農業者等を積極的に支援します。本年度は、第1次・第2次産業従事者によるチームを立ち上げ、素材の絞込みから試作の検討、デザイン開発を含めたマーケティングプランを作成します。

③農林産物の販売促進

物産館を中心とした地産地消の推進や福岡・熊本都市圏をターゲットとした農林畜産物等の情報発信やPRを行うなど、農林業と商工業・観光業が連携した新たな販路開拓、販売促進の取組みを展開します。

インターネット販売については、25年度にネット販売構築に係る現状把握と課題の洗い出しを行いましたので、本年度に課題を整理し、対策を講じた上で、早期の販売開始を目指します。

④企業誘致

企業立地動向は、依然として厳しいものがございますが、情報発信と情報収集に全力で取組み、新たな企業誘致の早期実現を目指します。

また、既に立地されている企業への支援にも力を注いでまいります。

⑤観光振興

山鹿灯籠まつりやさくら湯周年事業など誘客を促進するイベントの更なる充実を図ります。

また、さくら湯を中心とした温泉まち山鹿のイメージの確立に向けて、人づくり、組織体制の整備を図るとともに、おもてなしの心の醸成による受入態勢を充実し、年間を通した賑わいの創出に努めます。

最後に、第3の柱「人口減少に歯止めをかける・定住促進を図る」についてであります。

人口減少が急速に進む中でも、「住みたいまち」として選ばれるためには、子育て、教育、雇用、住環境など、暮らしに必要な諸機能が充実した「魅力あるまち」を創っていくことが不可欠であります。これまでのインフラ機能の整備充実の取組みに加え、暮らしの充実に重点を置いた取組みを進めます。

①母子保健

生涯を通じて健康で心豊かに生活するためには、妊娠中や子どもの頃からの健康づくりがたいへん重要です。幼い頃から、正しい生活習慣を身につけることで、成年期、高齢期を健康に過ごすことができます。

そこで、保護者が子どもの生活リズムや食生活を通じた生活習慣の大切さを理解し、学べるように、妊婦・2ヶ月児の全戸訪問とともに新たに10ヶ月児の育児教室を開催します。

②保育環境

保育環境の充実を図るため、公立保育園再編整備計画に基づき、民間活力の導入による公立保育園の統廃合、民営化を進めます。本年度

は鹿北地区の3つの公立保育園を統合・民営化するために、移譲先の法人の選定を行います。また、法人保育園の建替えによる施設整備を支援します。

③子ども医療費助成

子どもの疾病の早期治療と健全な育成を支援するため、医療費の助成を行う「子ども医療費助成事業」において、平成27年1月診療分から、対象者を12歳以下から18歳以下へ引き上げ、子どもの健康維持と子育て家庭の経済的負担の軽減を図ります。

④定住対策・地域おこし

都会を離れて田舎で暮らしたいという方の移住・定住を促すため、都市部で開催される移住相談フェア等に積極的に参加するとともに、移住希望者を受け入れる側の地元についても、講演会やワークショップを開催しながら移住定住への理解を深めていただくよう努めてまいります。

また、国が進めております「地域おこし協力隊」の制度を活用して、都市部から意欲のある人材を誘致し、農林業の応援、環境保全活動、住民の生活支援など各種地域活動に従事させることで、地域力の維持、強化を図ってまいります。

■その他の重要事業

以上3つの重点施策のほかに、以下の《重要事業》にも取り組んでまいります。

○平成27年度に第1次山鹿市総合計画が終了することから、本年度より、第2次総合計画の策定作業に着手します。

○光ブロードバンドによるインターネット未開通の「鹿北地区・菊鹿地区」については、12月中のサービス開始を目指します。

○消防救急無線のデジタル化及び指令システム整備については、平成27年10月の試験運用を目指し、システム構築に取り組めます。

○大規模商業施設の開発が計画されている桜町・明治町地区を含めた用途地域周辺については、良好な市街地の形成と合理的な土地利用への誘導を図るため、用途指定等の検討業務に着手します。

○市民及び来訪者を含めたあらゆる人々が目的地に安全かつ円滑に移動できるように、デザインや設置方法の統一化を図る「サイン計画」を策定します。

○一般廃棄物処理施設の整備については、施設基本計画の策定及び生活環境影響調査を実施します。

○菊鹿地区統合小学校について、平成28年4月の開校を目指して実施

設計業務を行います。

○県下最大のスポーツイベント第69回熊本県民体育祭「山鹿大会」を9月に開催します。

■結びに

以上、平成26年度の市政運営や予算編成にあたっての、私の基本的な考え方と施策の概要について申し上げます。

ところで、本市を取り巻く社会情勢や市民の日々の暮らしの中には、厳しい現実があることも事実です。人口減少による過疎化、地域コミュニティの希薄化、子育ての不安、長引く景気の低迷、非正規雇用者の増大など、数え上げれば切がありません。しかし、誰もが将来に対して何かしらの希望を持ちたいと願い、歯を食いしばって生活を営んでいます。

こうした厳しい状況にあって、私は最近、市長として市民を鼓舞する何かを提供しなければならないとの思いを強くしています。

ちょうど、今年9月には県民体育祭が本市で開催されますので、これを機会に「健康とスポーツ」の増進による、「明るく元気な市民、元気なまち」を創りたいと思い、市民が気軽に取り組み、基礎体力づくりにも効果があるといわれる「ウォーキング」、つまり、「歩くこと」を市民の皆さまに提唱しようと考えた次第です。

歩く途中では、見知らぬ方に出会ったり、自然や風景に新たな感動を覚えたりすると思います。気軽に挨拶を交わし、四季を肌で感じて心身をリフレッシュする。そして、明日を生き抜く活力にしていきたい。

『もっと歩こう！ふるさとのまちを、自然を、歴史を “健康・環境・活性化のために”』 そんな思いを込めた提案でございます。一人でも多くの皆さまに取り組んでいただけたら幸いです。

翻って、繰り返しになりますが、平成26年度は、合併10周年の節目の年であると同時に、新たな10年に向け力強く羽ばたかなければならない、非常に重要な年でもあります。それゆえ、私は、3つの柱として掲げた重点施策を確実に実行し、一人でも多くの市民の皆さまに、「山鹿に住んで本当に良かった」と実感していただけるよう、全身全霊で市政運営にあたる決意でございます。

本日から20日間にわたりご審議いただきます議案は、条例26件、予算20件、財産の譲渡5件、人事案件8件、その他3件の計62件と報告3件でございます。これらの諸議案の内容につきましては、担当職員が説明いたしますので、ご審議のうえ、何卒ご議決を賜りますようお願い申し上げます。